

LogVillage通信ポート設定資料

2014年3月17日
株式会社蒼天

本資料は、LogVillageにて管理対象PCから情報を収集する際に必要なポート設定を記載したものです。

1. 通常運用時の通信①

自端末	LogVillageポーリングサーバ
通信相手	管理対象PC

No.	プロトコル	手段	自端末側ポート番号	通信方向	通信相手側ポート番号	備考
1	TCP	NETBIOSセッションサービス	any	自端末→通信相手	139	※ポーリングサーバが稼動するサーバ(PC)のOS設定にて、使用ポートの範囲指定が可能 *1
2		NETBIOSセッションサービス	any	return	139	
3		SMBサービス	any	自端末→通信相手	445	
4		SMBサービス	any	return	445	
5		RPCポート・マップ	any	自端末→通信相手	135	
6		RPCポート・マップ	any	return	135	
7		RPC動的ポート	any	自端末→通信相手	1024～65535	
8		RPC動的ポート	any	return	1024～65535	
9	UDP	NetBIOS名前サービス	any	自端末→通信相手	137	
10		NetBIOS名前サービス	any	return	137	
11		NetBIOSデータグラム・サービス	any	自端末→通信相手	138	
12		NetBIOSデータグラム・サービス	any	return	138	
13	ICMP					※ICMP通信は未使用

2. 通常運用時の通信②

自端末	LogVillageポーリングサーバ
通信相手	LogVillageマネージャ

No.	プロトコル	手段	自端末側ポート番号	通信方向	通信相手側ポート番号	備考
1	TCP	HTTP	any	自端末→通信相手	80	※SSL通信(HTTPS・TCP:443)に変更する事も可能
2		HTTP	any	return	80	

3. PC自動設定ツール実行時にのみ発生する通信(管理対象PCがワークグループ環境の場合)

自端末	管理対象PC
通信相手	LogVillageマネージャ

No.	プロトコル	手段	自端末側ポート番号	通信方向	通信相手側ポート番号	備考
1	TCP	HTTP	any	自端末→通信相手	80	※SSL通信(HTTPS・TCP:443)に変更する事も可能
2		HTTP	any	return	80	

*1【ご参考】RPC動的ポートの範囲指定

RPC動的ポートの範囲とする場合、自端末(LogVillageポーリングサーバ)側にて以下の設定を行ってください。

◇WindowsServer2003(またはXP)以前の場合

※以下の手順では、RPC動的ポートの範囲を 5001-5020 とすることを前提に説明しています。

- 1) 「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」→「管理ツール」を開く
- 2) 「コンポーネントサービス」を右クリックし、[開く]を選択
- 3) 「コンピューター」をダブルクリック
- 4) 「マイコンピューター」を右クリックし、[プロパティ]を選択
- 5) 「既定のプロトコル」タブを選択
- 6) 「接続指向TCP/IP」をダブルクリック
- 7) 「COM インターネットサービスのプロパティ」ウインドウの「追加」ボタンをクリック
- 8) 「ポート範囲の追加」ウインドウの”ポート範囲(P):”にRPC動的ポートの範囲を入力
(入力内容) 5001-5020

◇WindowsServer2008(またはVista)以降の場合

※WindowsOSの仕様により、ポート番号49152 ~ 65535の範囲内で、最小範囲が255ポートとなります。

※以下の手順では、動的ポートの範囲を 50001-50255 とすることを前提に説明しています。

- 1) 管理者権限にてコマンドプロンプトを起動
- 2) 以下のコマンドを実行
netsh int ipv4 set dynamicport tcp start=50001 num=255